

5. 公開セミナー

(1) 特殊教育普及セミナー

実行委員会委員長：川住 隆一重複障害教育研究部室長

本年度の特殊教育普及セミナーは、「学習指導要領の改訂と新たな特殊教育の展開－「自立活動」を中心に－」のテーマのもとに、長野県教育委員会との共催により、平成13年1月25日(木)～26日(金)の2日間にわたり、長野県長野市のJA長野県ビル・アクティーホールにおいて開催した。

第1日目は、午前を群馬大学名誉教授細村迪夫氏(現、本研究所理事長)による講演「学習指導要領と新たな特殊教育の展開」、午後をシンポジウム「障害のある人々の「自立」について」と題して、実行委員会委員長の川住隆一を司会に、佐野国際情報短期大学教授中野善達氏及び知的障害者通所授産施設「蔵王すずしろ」施設長武田元氏からの話題提供を受け、指定討論者である本研究所肢体不自由教育研究部室長滝坂信一からも話題を投げかけて討論を進めた。

第2日目は、午前を本研究所知的障害教育研究部長山下皓三による講演「個の課題を捉える視点と対応」と、午後をパネルディスカッション「「自立活動」の課題と実践への示唆」と題して本研究所視覚障害教育研究部室長大内進を司会に、パネリストとして新潟県立教育センター指導主事佐藤昇誠氏、長野県稲荷山養護学校教諭神尾敦男氏及び本研究所重複障害教育研究部長後上鐵夫の三者による討論を行った。

本セミナーは、「自立活動」について、「新たな特殊教育の展開」の視点から考え、障害のある子どもの教育関係者にとって「自立活動」及び「個別の指導計画」を実践していく上での課題を整理し、明日からの取り組みに生かせる示唆を得る機会となることをねらいとして立案・運営したものであり、参加者はのべ580名(参加申込：336名)で、質疑・意見交換が活発になされた。

(2) 研究成果報告会

平成12年度研究成果報告会は、平成13年3月2日(金)に横須賀市文化会館中ホール及び展示室を会場にして開催した。今回は、特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」の研究成果を報告するとともに、新しい試みとして休憩時間などを利用して各研究部の研究活動をパネル展示により紹介した。当日は約230名の参加者があった。

特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」では、種々の障害などにより自力では意思表出が困難だと思われていた子どもたちが、身体に触れてもらうことによってそれまで困難と思われていた日常生活に関する動作や書字・描画といった目的的な動作ができるという事例が国内外で報告されているという実態に基づき、そうした自力では書字・描画の困難な子どもたちに焦点をあてて、他者が身体へ触れることによって書字・描画を実現する表出援助法の検討を行ってきた。

本報告会では、身体への接触による書字・描画などの表出援助に関する実践事例を指導者の立場や保護者の立場から紹介するとともに、目的的な動作が身体に触れることによって実現することをどのように考えたらいのか、このような意思表出の実現は本人や周囲の人々にどのような影響をもつのかについて報告した。さらに、こうした表出援助による書字・描画の実現の背景をさぐるために報告者を中心とするパネリストによるパネルディスカッションも行った。これらの報告等ののち、参加者を交えて研究協議を行った。研究協議では、触れるということへの効果を再認識する発言が相次いだ。アンケートでも強い関心を示す回答が多く、本研究の成果を基に、実際に学校等の実際の教育場で役立ててもらえるような方策を検討していくことが今後の課題である。

パネル展示による研究活動の紹介は、休憩時間や昼食時を利用して行った。各研究部及び国立久里浜養護学校の活動の概要を初の試みである今回の研究部紹介のスタイルについては、アンケートによると参加者の6割から良かったという回答が得られた。特定の研究部だけでなく、研究所全体及び国立久里浜養護学校の活動の概要が紹介できた点で成果があったといえる。参加者からは、パネルの内容やより詳細な資料の提供などについての要望もあり、今後さらに配慮しなければならない点も明らかになった。